

令和2年度(2020年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、産卵期にあたる5～7月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方法

2020年6月3日および4日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（採取幅174cm、袋網の目合い30mm）を用いて調査した。前年に引き続き台風の影響で瓦礫の大量混入が予測されたことから、曳網時間は船頭の任意とし、各漁場内で3回繰り返してそれぞれ採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。曳網中のGPSの軌跡から距離を割り出し、曳網面積を算出した。

3. 結果

調査した16漁場における平均資源密度は、0.32個体/m²と前年(0.34個体/m²)同様低迷した(表1)。地域別にみると、主要漁場を含む東岸では0.40個体/m²から0.36個体/m²に減少したのに対して、西岸では0.21個体/m²から0.24個体/m²に増加した。

主要7漁場のうち5漁場では資源密度がやや上昇し(図1)、平均では0.40個体/m²だった前年から0.46個体/m²に増加した。サイズ別にみると、殻長18mm以上の密度は平均で0.18個体/m²から0.13個体/m²に減少したのに対して、殻長18mm未満は0.21個体/m²から0.33個体/m²に増加した(図2)。

表1 2020年禁漁期における琵琶湖北湖一円の漁場別資源密度(入網数)

漁場	曳網回数	平均曳網面積(m ²)	平均資源密度(個/m ²)	標準偏差
東岸				
今西※	3	329	0.15	0.07
長浜※	3	222	0.58	0.11
磯※	3	232	0.80	0.19
松原※	3	229	0.47	0.17
石寺	3	225	0.32	0.04
新海	3	201	0.13	0.05
沖島東※	3	114	0.65	0.17
沖島西※	3	258	0.38	0.25
沖島南西※	3	273	0.20	0.05
牧	3	149	0.18	0.03
菖蒲	3	215	0.08	0.04
西岸				
海洋	1	191	0.19	—
針江	3	136	0.03	0.02
鴨川	3	258	0.49	0.12
高島	3	227	0.31	0.07
近江舞子	3	195	0.17	0.09
平均			0.32	
			主要漁場※	0.46

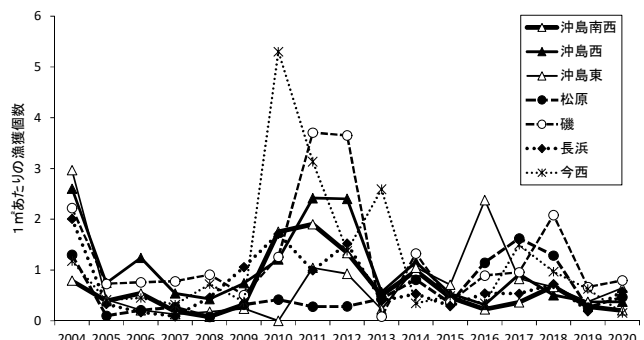


図1 各主要漁場における資源密度の推移。

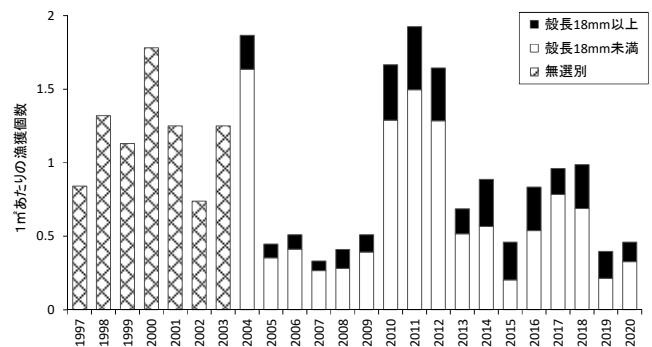


図2 主要7漁場における平均資源密度とサイズ別内訳の推移。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。